株式会社ニチレイ
〒104-8402 東京都中央区築地六丁目19番20号
☎(03)3248-2101(代表)
☎(03)3248-2113(財務グループ　株式担当直通)

株主メモ

事業年度	4月1日から翌3月31日まで
定時株主総会	6月
定時株主総会議決権基準日	3月31日
期末配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
上場金融商品取引所	東京・大阪
公告方法	当社公告につきましては、下記ホームページに掲載いたします。 http://www.nichirei.co.jp/ ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に公告を掲載いたします。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先 電話お問合せ先	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎(03)5213－5213(代表) 0120－288－324
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

ご案内

1. 住所、氏名、配当金の振込先などの変更および単元未満株式の買取り、買増しにつきましては、株主名簿管理人へお問合せのうえ、お手続きください。
2. 配当金をゆうちょ銀行貯金口座へお振込みすることができます。お手続きには振込指定書のご提出が必要ですので、株主名簿管理人に指定用紙をご請求ください。

【お知らせ】

株券の電子化について

2009(平成21)年1月を目標時期に、株券の電子化の準備が進められています。(正式には政令により実施日が決まります。)株券をお手元(自宅、貸金庫等)にお持ちの方は、必ず株券が本人名義になっているかをご確認ください。

(注) 別添の上場会社の「株券電子化」のリーフレットをご一読ください。

1 ご本人名義の株券をお持ちの場合

株主の権利に影響はありません。「特別口座」※に登録され、管理されます。ただし、株券の電子化後に株式を売却するには証券会社にご本人口座を開設し、株式の振替手続きをする必要があります。

(注)「特別口座」では、株式の売却はできません。

2 ご本人以外の名義になっている株券をお持ちの場合

他人名義の「特別口座」に登録されますので、株主の権利を失う恐れがあります。早急に名義書換をしてください。名義書換については、お取引のある証券会社か当社の株主名簿管理人(みずほ信託銀行)にお問合せください。

3 株券を証券会社を通じて「証券保管振替機構(ほふり)」にお預けの場合

特別な手続きは必要ありません。株主の権利は自動的に確保されます。

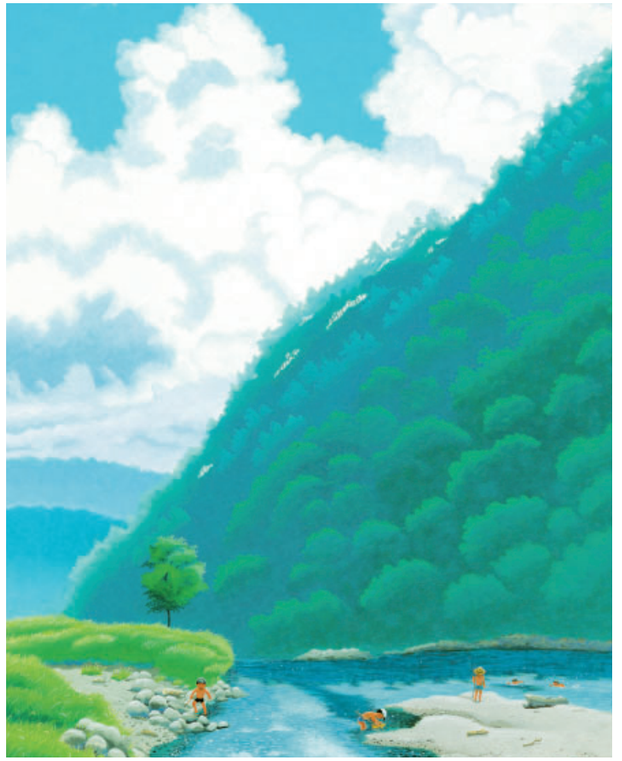
※「特別口座」～株券電子化に伴い、証券会社を通じて株券を「証券保管振替機構(ほふり)」に預けていない株主の権利を確保するために、自動的に上場会社が信託銀行等に開設する口座です。

ミックス品
FSC認証林及び管理された森林からの製品グループです
www.fsc.org Cert no. SGS-COC-2499
© 1996 Forest Stewardship Council

HOPPE ほっぺ

Vol.20

第90期 グループ報告書
2007年4月1日～2008年3月31日

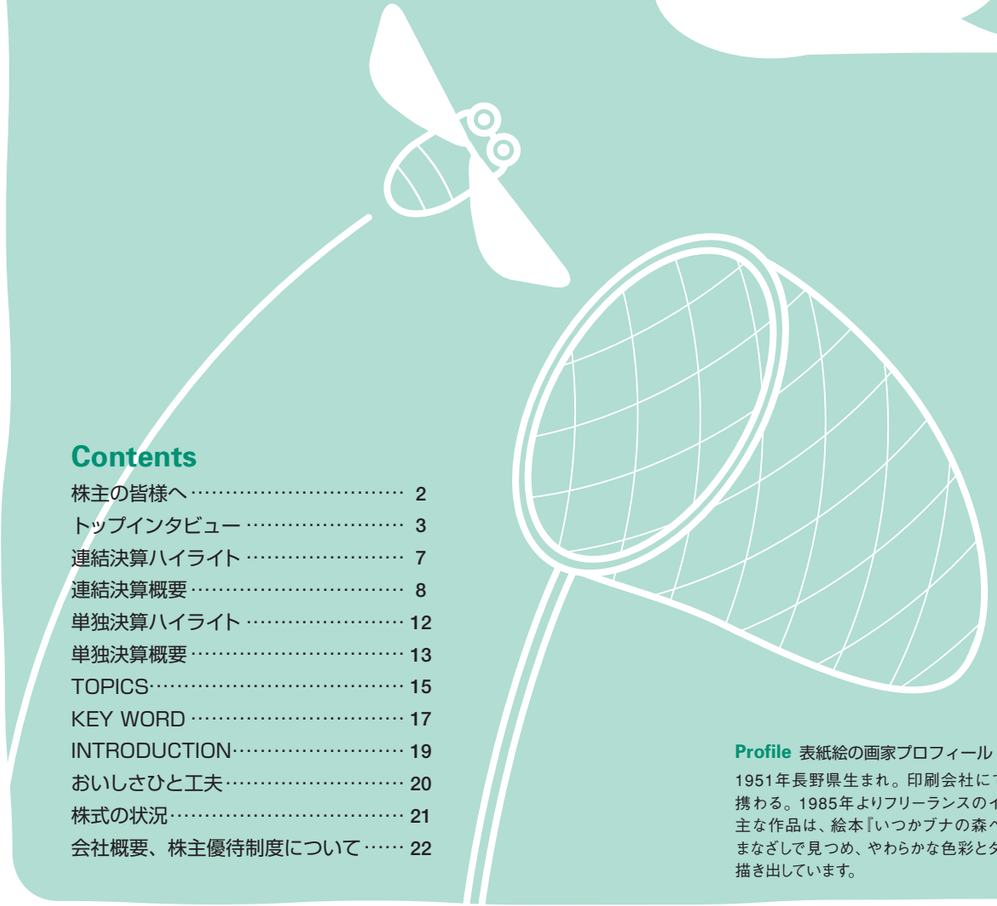


株式会社ニチレイ

証券コード：2871

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。

ニチレイは、品質へのあくなきこだわりと、培われた技術、新しいアイデア、
グループトータルのネットワークによって、新鮮で、健康なおいしさをお届けし、
笑顔のあふれる食卓を創り出していきます。



Contents

株主の皆様へ …… 2
トップインタビュー …… 3
連結決算ハイライト …… 7
連結決算概要 …… 8
単独決算ハイライト …… 12
単独決算概要 …… 13
TOPICS …… 15
KEY WORD …… 17
INTRODUCTION …… 19
おいしさひと工夫 …… 20
株式の状況 …… 21
会社概要、株主優待制度について …… 22

Profile 表紙絵の画家プロフィール **倉本 冨士男氏**

1951年長野県生まれ。印刷会社にてイラストレーション制作に携わる。1985年よりフリーランスのイラストレーターとして活躍。主な作品は、絵本『いつかブナの森へ』。自然や人をあたたかなまなざしで見つめ、やわらかな色彩とタッチでピュアな心の情景を描き出しています。

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申しあげます。ここに第90期グループ報告書をお届けするにあたり、日頃のご支援に心から厚く御礼申しあげます。

当期前半は、好調な企業業績を背景にした設備投資の増加や雇用環境の改善などに支えられ、景気は比較的堅調に推移しました。しかしながら、米国サブプライム住宅ローン問題や原油をはじめとした資源価格の高騰の影響から、年度末にかけて先行きへの不透明感が増し、景気は全般的に後退傾向となりました。

食品・物流関連業界におきましては、原材料や燃油などのコスト上昇が企業の収益を圧迫する厳しい状況が続くなか、食品偽装表示や中国製冷凍餃子の農薬混入事件など一連の問題の影響を受け、生活者に「安全・安心」な食品を継続的に提供することはもとより、高い倫理性・透明性を貫き、広く社会に貢献できる企業姿勢がより一層強く求められております。

このような経営環境のなか、当社グループは、「攻めと挑戦」の期間と位置付けた「グループ中期経営計画（2007年度～2009年度）」の初年度として、事業活動から生み出されるキャッシュ・フローを積極的に投資に振り向け、収益基盤の拡大をめざすとともに、他社とのアライアンスやグローバル展開を視野に入れた成長戦略への取組みを開始しました。

また、品質保証体制強化の一環として、中国・台湾の9社で構成する「日冷蔬菜会」を設立し、中国産冷凍野菜の栽培・品質管理基準の統一を図り、安全性の確保に努めました。

将来に向けた成長基盤の確立を柱とした「グループ中期経営計画（2007年度～2009年度）」の初年度は、食品に関する一連の問題や原油をはじめとした資源価格の高騰など、急激に事業環境が変化するなかでのスタートとなりました。2008年度は、目まぐるしく変化する事業環境へ適正かつ迅速に対応するとともに、当初の計画どおり成長分野への投資に優先的に振り向け、収益基盤の拡大を推進することで企業価値の向上に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申しあげます。

2008年6月吉日

グループミッション・ビジョン

ミッション【使命・存在意義】

くらしを見つめ、人々に心の満足を提供する。

ビジョン【めざす姿】

ニチレイグループは、卓越した食品と物流のネットワークを備える「食のフロンティアカンパニー」として、お客様にご満足いただける優れた品質と価値ある商品・サービスを創造・提供し、広く好感と信頼を寄せられる企業として、社会とともに成長します。

代表取締役会長 浦野光人　代表取締役社長 村井利彰

代表取締役社長 村井 利彰

中期経営計画（2007年度～2009年度）の完遂というミッションに対し、全精力を傾けて取り組んでいきます。

2007年4月より、「攻めと挑戦」をキーワードに掲げた中期経営計画がスタートしました。初年度を終え、計画の進捗状況や手応え、さらに計画2年目へ向けての決意などを、村井代表取締役社長にインタビューしました。

Q 2007年度のビジネス環境および業績結果について、どのように評価されていますか。

2007年度の国内景気は、前半は比較的堅調に推移しましたが、後半になると原油価格の高騰や米国の景気減速など多くの不安定要素が顕在化し、景気は全般的に後退傾向となりました。

こうしたなか、加工食品事業を取り巻く環境は、小麦や大豆に代表される穀物価格の高騰に加え、畜産素材などの原材料価格の上昇が続きました。この原因は、産地の干ばつなどの天候不順による収量の変動といった一過性の問題というより、中国やインドの経済発展に伴う、食生活の変化によるものも大きく影響しており、中期的には、世界の食糧の需給構造に大きな変化が起こりつつあるとみています。

低温物流事業は、その取扱いの大半が食品であることから、荷主企業様からの物流効率化に対する要請が強いなか、原油価格の上昇に歯止めがかからず、電力料金や燃油価格の高騰が続いており、特に運送部門において、燃油サーチャージ制の浸透が喫緊の課題となっています。

このような環境のもとで、加工食品事業における製品価格の改定や好景気が続く欧州での物流事業の積極拡大を進めました。この結果、2007年度のグループ連結業績は、売上高4,635億円、営業利益173億円となりました。

Q 「攻めと挑戦」の中期経営計画（2007年度～2009年度）について、初年度の手応えはいかがですか。

加工食品事業は、中国餃子事件の影響による中国産食品に対する不安から、計画初年度（2007年度）の当初目標には届きませんでしたが、低温物流事業が、海外事業の好調さもあって、計画最終年度の営業利益を前倒して達成するなど、グループ全体としての計画最終年度（2009年度）の目標達成は、まだ十分射程内にあると考えています。

事業分野別に初年度の課題を振り返ってみますと、加工食品事業では、中国餃子事件の影響もあり、家庭用冷凍食品のマーケットが低迷しましたが、業務用冷凍食品やウエルネス食品では計画通り推移しています。2008年度は、家庭用冷凍食品の商品開発体制の強化ならびにアセロラ商品の全面リニューアルなどにより、目標達成をめざします。

低温物流事業では、改正建築基準法の施行により、老朽化設備の更新は計画にくらべ半年程度遅れていますが、これを積極的に進めていきます。また、成長を続けるポーランドにおいて、新センターの建設に着手します。

水産事業では、えびの市況悪化などにより、2007年度に達成できなかった営業利益の黒字化を必達すべく、販売地域の集中や固定費の削減を含む収益構造の改革を進めていきます。

Q 2005年4月に持株会社体制に移行し、3年が経過しました。その成果と課題をお聞かせください。

体制が変わっても、ニチレイグループのミッション・ビジョンは変わりませんし、グループ持株会社の社長としての責任という点においても、グループ全体としての経営計画の完遂をめざしていくことに尽きるという意味で、マネジメント体制に全くぶれはありません。

ニチレイグループが、持株会社に移行したねらいは、グループ共通の経営理念のもと、各事業会社が自立し、激変する業界環境に各社が即応し、それぞれの業界や特定の事業分野でNo.1の地位を確立していくことでした。このため、持株会社体制への移行に際して、各事業会社に大幅な権限委譲を行いました。例えば人材の採用、育成、処遇制度の構築なども、各社の責任・権限としています。

一方、持株会社であるニチレイは、グループ全体の経営資源の配分ならびにリスクマネジメントと持株会社固有の機能である資金調達や広報・IR活動の推進などに専念することにしています。

移行後3年が経過し、各事業会社が、自らめざす事業ビジョンを構築するなど、各社らしさがだいぶ現れてきましたし、意思決定のスピードは、相当あがったと思います。しかし、個々の事業会社ごとに見ますと、社員の独立企業としての自立意識は、まだ満足できる水準には至ってないと思います。今後、さらに独立企業としての自立意識の浸透を図り、ニチレイグループが自立した強い事業会社の連合体として飛躍していくように舵取りをしていきます。

Q 食の「安全・安心」について、ニチレイグループの取組みをお聞かせください。

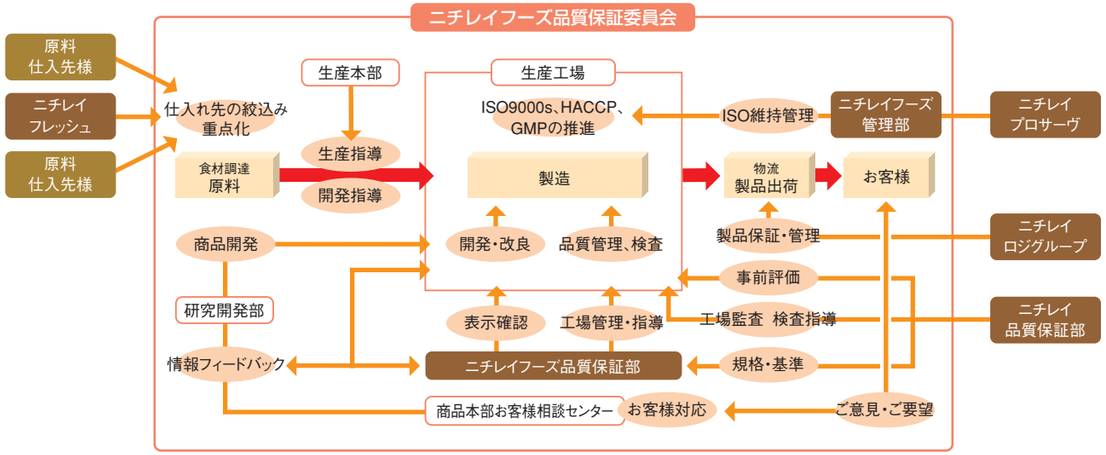
2007年度は、食の安全を脅かすような出来事が頻発し、食品企業に対する信頼が揺らいだ1年でした。こうしたなかで、ニチレイグループは、事業活動の発想と行動において、お客様第一、安全第一、品質第一の考え方を徹底しています。食の「安全・安心」を確保するために、これまで実施してきた施策を今後さらに磨いていきます。

特に中国産の食材に関しましては、数年前より日本から農業技術者を生産地へ派遣しており、農場の管理や農薬の使用に関する指導を行っています。また、現地での検査体制に関しましても、中国（山東省）に株式会社日清製粉グループ本社様と共同で設立しました「錦築（煙台）食品研究開発有限公司」において、原材料や製品の安全性に関する分析や研究を実施しています。

ニチレイグループにおける品質管理体制に関しましては、各事業会社では社長を委員長とする品質保証委員会を設置し、日々の管理体制をチェックしています。グループ全体としては、持株会社社長を委員長とするグループ品質保証委員会を設置し、各社の品質管理体制のモニタリングや重大事故の発生防止などの対策立案を図るなど、いわゆる二層の管理体制により、「安全・安心」な食品の提供を担保しています。

特に生活者の皆様と最も近いニチレイフーズでは、ホームページ上で家庭用冷凍食品の主な原材料の原産地情報を公開するなど、「安全・安心」に関する取組みを進めています。

■「安全・安心」の取組み



Q 最後に株主の皆様へ向けてのメッセージをお願いします。

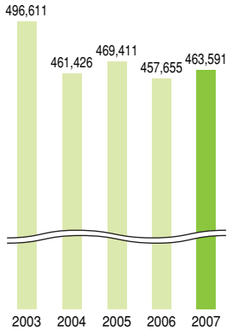
計画初年度は、サブプライム問題などによる景気の悪化に加え、食の「安全・安心」を揺るがす事故や事件の多発、改正建築基準法の施行による建築確認申請業務の停滞による設備投資計画の実施の遅れなどから、当初目標には届きませんでしたが、環境変化への迅速な対応により、中間決算時点での修正見通しを上回ることができました。

計画2年目にあたる2008年度も、原材料価格や原油の高騰など、引き続き厳しい事業環境が予想されますが、グループ役員・社員一丸となって、目標達成に向け全力を傾注してまいります。

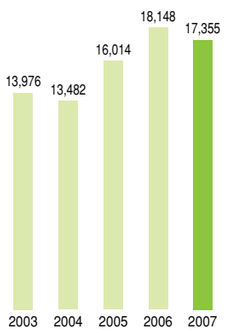
株主の皆様におかれましては、なお一層のご指導ご鞭撻をお願い申しあげます。

連結決算ハイライト

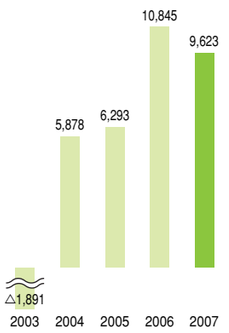
売上高 （年度/単位：百万円）



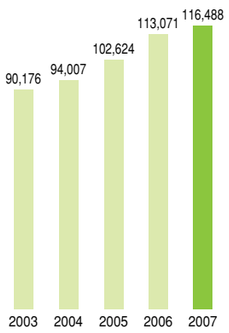
営業利益 （年度/単位：百万円）



当期純利益 （年度/単位：百万円）



純資産 （年度/単位：百万円）



区　分	単位	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
売上高	百万円	496,611	461,426	469,411	457,655	463,591
営業利益	百万円	13,976	13,482	16,014	18,148	17,355
経常利益	百万円	12,095	12,893	15,660	17,388	16,890
当期純利益	百万円	△ 1,891	5,878	6,293	10,845	9,623
総資産	百万円	284,700	276,417	268,501	269,166	257,812
純資産	百万円	90,176	94,007	102,624	113,071	116,488
1株当たり当期純利益	円	△ 6.28	18.45	19.83	34.97	31.04
1株当たり純資産	円	290.38	302.50	330.40	358.08	368.56
設備投資額	百万円	5,184	4,968	6,553	8,958	7,044
減価償却費	百万円	11,904	11,139	10,775	9,529	9,481
有利子負債	百万円	124,388	111,984	86,209	72,971	66,138
従業員数	名	5,770	5,575	5,603	5,711	6,054

（注）1. △印は損失を示しています。
2. 2003年度～2005年度における「純資産」には、会計基準に伴う少数株主持分は含まれていません。

連結決算概要

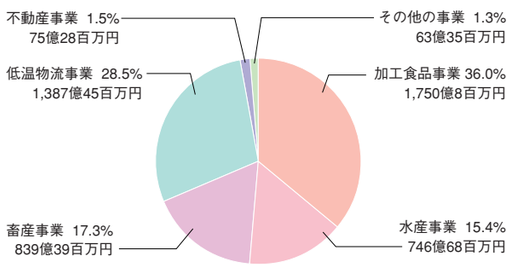
●連結子会社数 71社　●持分法適用関連会社数 15社

当期の連結業績は、低温物流事業における海外事業の取扱いが大きく伸長したことや畜産事業が好調に推移したことから売上高は、4,635億91百万円（前期比1.3%の増収）、営業利益は、家庭用冷凍食品やアセロラ商品の低迷などにより加工食品事業が減益となったことから173億55百万円（前期比4.4%の減益）となり、経常利益も営業利益の減少を受けて168億90百万円（前期比2.9%の減益）となりました。

特別利益につきましては、固定資産売却益など11億70百万円を計上し、特別損失として固定資産除却損など15億88百万円を計上しました。

特別利益・損失、税金費用、ならびに少数株主利益を加減算した当期純利益は96億23百万円（前期比11.3%の減益）となりました。

セグメント別売上高構成比



セグメント情報

当　期 2007年4月1日から2008年3月31日まで （単位：百万円）

	売上高	営業費用	営業利益
加工食品事業	175,008	170,895	4,112
水産事業	74,668	75,124	△ 455
畜産事業	83,939	83,330	609
低温物流事業	138,745	130,238	8,506
不動産事業	7,528	3,268	4,259
その他の事業	6,335	6,099	236
計	486,226	468,957	17,268
消去または全社	（22,634）	（22,721）	86
連結	463,591	446,236	17,355

前　期 2006年4月1日から2007年3月31日まで （単位：百万円）

	売上高	営業費用	営業利益
加工食品事業	177,305	171,287	6,018
水産事業	74,657	75,011	△ 353
畜産事業	80,910	80,260	649
低温物流事業	134,073	126,846	7,227
不動産事業	7,882	3,416	4,465
その他の事業	6,972	6,832	140
計	481,802	463,654	18,148
消去または全社	（24,147）	（24,148）	0
連結	457,655	439,506	18,148

連結決算概要

（注）1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。
2. ポイントにおける記載金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

区分	当期 2008年3月31日現在	前期 2007年3月31日現在
流動資産	103,097	107,660
固定資産	154,714	161,505
有形固定資産	111,876	109,534
無形固定資産	3,671	3,620
投資その他の資産	39,166	48,350
資産合計	257,812	269,166
流動負債	81,247	86,289
固定負債	60,076	69,805
負債合計	141,323	156,094
株主資本	107,338	100,543
資本金	30,307	30,307
資本剰余金	23,711	23,709
利益剰余金	53,678	46,847
自己株式	△ 359	△ 321
評価・換算差額等	6,923	10,491
少数株主持分	2,226	2,036
純資産合計	116,488	113,071
負債純資産合計	257,812	269,166

貸借対照表のポイント POINT

（括弧内は前期末比の増減）

総資産　2,578億円（113億円の減少）

○前期末日が金融機関の休業日であったことなどから受取手形および売掛金が22億円減少
○水産事業で在庫水準の適正化を進めるなどによりたな卸資産が23億円減少
○売却や時価下落などにより投資有価証券が90億円減少

負債　1,413億円（147億円の減少）

○水産事業における適時買付の推進により支払手形および買掛金が29億円減少
○未払法人税等が23億円減少
○社債の償還などで有利子負債が68億円減少

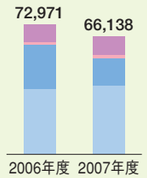
純資産　1,164億円（34億円の増加）

○当期純利益96億円の計上、配当金の支払い27億円、評価・換算差額等が35億円減少

有利子負債のポイント POINT

有利子負債は、長期借入金の返済や社債の償還が進み68億円減少し、661億円となりました。

有利子負債の状況（単位：百万円）



	2006年度	2007年度
短期借入金	10,123	10,419
コマーシャルペーパー	1,000	2,000
社債	25,000	15,000
長期借入金	36,848	38,719

連結損益計算書（要旨）

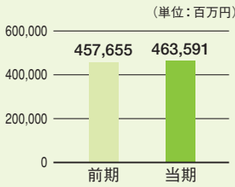
（単位：百万円）

区分	当期 2007年4月1日から 2008年3月31日まで	前期 2006年4月1日から 2007年3月31日まで
売上高	463,591	457,655
売上原価	373,797	368,855
売上総利益	89,794	88,799
販売費及び一般管理費	72,439	70,651
営業利益	17,355	18,148
営業外収益	2,367	2,710
営業外費用	2,831	3,470
経常利益	16,890	17,388
特別利益	1,170	5,088
特別損失	1,588	3,276
税金等調整前当期純利益	16,472	19,200
法人税、住民税及び事業税	4,539	6,219
法人税等調整額	2,081	2,036
少数株主利益	227	98
当期純利益	9,623	10,845

損益計算書のポイント POINT

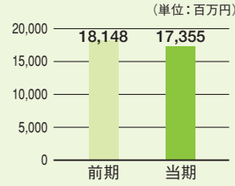
（括弧内は前期比の増減）

売上高　4,635億円（59億円の増収）



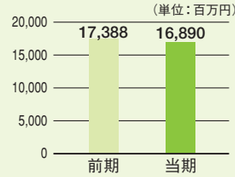
○加工食品事業は家庭用冷凍食品市場全体の落込みやアセロラ商品の低迷により減収
○水産事業は事業の再生プランに基づく取組みを推進したことから重点商品の取扱いが伸長
○畜産事業は鶏肉や豚肉などの国産品の販売拡大に注力したことにより増収
○低温物流事業は、欧州を中心とした海外事業の伸長や前年度に稼動したTC（通過型センター）、コンビニエンスストア店舗配送業務の受託などにより物流ネットワーク事業が増収

営業利益　173億円（7億円の減益）



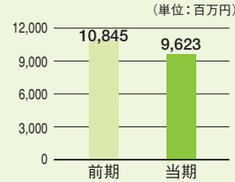
○加工食品事業は家庭用冷凍食品やアセロラ商品の減収などにより減益
○低温物流事業は海外における取扱いが大幅に伸長したことや物流ネットワーク事業の採算性の改善などにより増益

経常利益　168億円（4億円の減益）



○営業利益の減少により減益

当期純利益　96億円（12億円の減益）



○特別利益　11億円
・固定資産売却益など
○特別損失　15億円
・固定資産除却損など

連結決算概要

（注）1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。
2. ポイントにおける記載金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

区　分	当　期 2007年4月 1日から 2008年3月31日まで	前　期 2006年4月 1日から 2007年3月31日まで
●営業活動によるキャッシュ・フロー	20,290	22,431
●投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,443	△ 5,861
●財務活動によるキャッシュ・フロー	△13,919	△16,567
現金及び現金同等物に係る換算差額	288	221
現金及び現金同等物の増加額	216	223
現金及び現金同等物の期首残高	3,514	3,290
連結範囲変更に伴う現金及び現金同等物の増加額	391	—
現金及び現金同等物の期末残高	4,121	3,514

キャッシュ・フロー計算書のポイント POINT

（括弧内は前期比の増減）

営業活動によるキャッシュ・フロー　202億円の収入（21億円の減少）

○経常利益は168億円、減価償却費は94億円で前期並み
○営業資金（売上債権・たな卸資産・仕入債務）の圧縮により15億円の資金増加
○法人税等の支払いが前期に比べ16億円増の74億円の支出

投資活動によるキャッシュ・フロー　64億円の支出（5億円の増加）

○Tengu Company, Inc.（米国子会社。会社解散決定）の土地・建物等や投資有価証券の売却などの収入を設備投資などによる支出が上回り、64億円の支出

財務活動によるキャッシュ・フロー　139億円の支出（26億円の減少）

○配当金の支払いや有利子負債の減少などにより139億円の支出

以上により、現金及び現金同等物の期末残高は、前期末に比べ6億7百万円増加し41億21百万円となりました。

連結株主資本等変動計算書

（2007年4月1日から2008年3月31日まで）

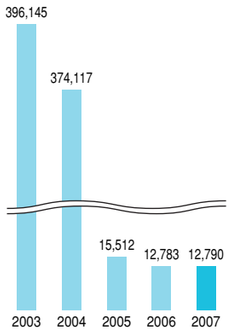
（単位：百万円）

区　分	株主資本					評価・換算差額等				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
2007年3月31日残高	30,307	23,709	46,847	△ 321	100,543	8,203	312	1,975	10,491	2,036	113,071
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△2,791		△2,791						△2,791
当期純利益			9,623		9,623						9,623
自己株式の取得				△ 47	△ 47						△ 47
自己株式の処分		2		9	11						11
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）						△4,062	△ 413	906	△3,568	190	△3,378
連結会計年度中の変動額合計	—	2	6,831	△ 38	6,795	△4,062	△ 413	906	△3,568	190	3,416
2008年3月31日残高	30,307	23,711	53,678	△ 359	107,338	4,141	△ 101	2,882	6,923	2,226	116,488

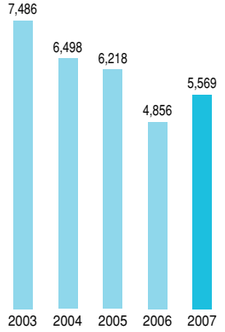
単独決算ハイライト

（注）2005年4月1日付で持株会社体制へ移行したことにより、2005年度から当社の単独決算数値は持株会社としての実績値となっています。

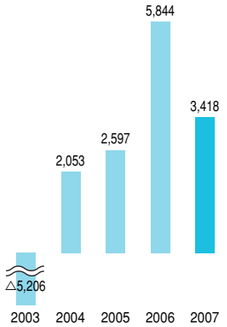
売上高（年度/単位：百万円）



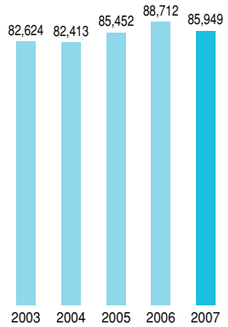
営業利益（年度/単位：百万円）



当期純利益（年度/単位：百万円）



純資産（年度/単位：百万円）



区　分	単位	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
売上高	百万円	396,145	374,117	15,512	12,783	12,790
営業利益	百万円	7,486	6,498	6,218	4,856	5,569
経常利益	百万円	7,532	6,851	6,879	5,762	6,510
当期純利益	百万円	△ 5,206	2,053	2,597	5,844	3,418
総資産	百万円	256,982	301,285	184,818	178,562	163,882
純資産	百万円	82,624	82,413	85,452	88,712	85,949
1株当たり当期純利益	円	△ 16.76	6.32	8.25	18.84	11.02
1株当たり純資産	円	266.13	265.24	275.28	285.98	277.13

（注）△印は損失を示しています。

単独決算概要

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

単独貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

区分	当期 2008年3月31日現在	前期 2007年3月31日現在
流動資産	31,729	33,632
固定資産	132,152	144,930
有形固定資産	18,367	18,151
無形固定資産	894	674
投資その他の資産	112,890	126,104
資産合計	163,882	178,562
流動負債	29,184	28,634
固定負債	48,747	61,215
負債合計	77,932	89,849
株主資本	82,638	82,048
資本金	30,307	30,307
資本剰余金	23,711	23,709
利益剰余金	28,931	28,304
自己株式	△ 311	△ 273
評価・換算差額等	3,311	6,664
純資産合計	85,949	88,712
負債純資産合計	163,882	178,562

単独損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

区分	当期 2007年4月 1日から 2008年3月31日まで	前期 2006年4月 1日から 2007年3月31日まで
営業収益	12,790	12,783
営業費用	7,220	7,927
営業利益	5,569	4,856
営業外収益	1,913	1,874
営業外費用	972	968
経常利益	6,510	5,762
特別利益	339	4,777
特別損失	629	1,047
税引前当期純利益	6,219	9,492
法人税、住民税及び事業税	705	1,773
法人税等調整額	2,096	1,874
当期純利益	3,418	5,844

単独株主資本等変動計算書

（2007年4月1日から2008年3月31日まで）

（単位：百万円）

	株主資本											評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金					自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計					
						固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金						
2007年3月31日残高	30,307	7,604	16,104	23,709	39	746	20,510	7,008	28,304	△ 273	82,048	6,664	6,664	88,712
事業年度中の変動額														
固定資産圧縮積立金の取崩						△ 16		16	—		—			—
別途積立金の積立							2,900	△2,900	—		—			—
剰余金の配当								△2,791	△2,791		△2,791			△2,791
当期純利益								3,418	3,418		3,418			3,418
自己株式の取得										△ 47	△ 47			△ 47
自己株式の処分			2	2						9	11			11
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額（純額）												△3,353	△3,353	△3,353
事業年度中の変動額合計	—	—	2	2	—	△ 16	2,900	△2,256	626	△ 38	590	△3,353	△3,353	△2,762
2008年3月31日残高	30,307	7,604	16,106	23,711	39	729	23,410	4,752	28,931	△ 311	82,638	3,311	3,311	85,949

期末配当金について

当社は、連結株主資本配当率※（DOE）を基準として安定的な配当の継続を重視するとともに、各事業年度の連結業績などを勘案しながら利益配分を行っていくことで、資本の効率性と利益配分の双方を配当の目標とすることを基本方針としています。

当期の期末配当金につきましては、上記の方針に基づき連結業績およびキャッシュ・フローの状況などを勘案したうえで、1株につき4円とさせていただきました。

これにより中間配当金4円を加えた年間配当金は、1株につき8円となります。

※株主資本配当率（DOE：Dividend on equity ratio）
株主本来の持分である株主資本に対して、株式会社がどの程度、利益配分による配当を回しているかを表すもの。配当性向とともに株主還元の状況を表す指標の1つです。

東京証券取引所　平成19年度（第13回）「上場会社ディスクロージャー表彰」

企業内容などを適時、適切に開示し、ディスクロージャーに積極的な上場企業を表彰する制度（毎年1回表彰）です。ニチレイは、表彰6社のうちの1社に選ばれました。

トロフィーを手に（右：村井代表取締役社長）

TOPICS（新会社紹介）

株式会社スマイルダイナー ～健康をサポートする食事をお届けします。

株式会社スマイルダイナーは、昨年8月に株式会社ニチレイフーズと三菱商事株式会社との合弁で設立された生活習慣病患者およびその予備軍の方々向けのミールサービス事業会社です。

本年4月より特定保険指導制度が新たに始まることにより、今まで健康数値をあまり意識してこなかった層や健康に対して不安を抱える層の皆様が日々の食事に求める「健康」への期待・要求が飛躍的に高まると予測されています。

株式会社スマイルダイナーは、自社のECサイト※1および病院・クリニック・介護事業者への支援事業会社や健康保険組合などとのネットワーク、コンソーシアム※2を通じ、直接生活者の皆様に向け、健康をサポートする食事をお届けします。そして、食事だけではなく、楽しく・おいしく・健康な食卓を演出する幅広い品揃えとサービスの提供を実現していきます。

私たちは、普段の食事のなかで健康のためにできることがもっとあると考えています。健康的な食事とサービスの提供を通じて「皆様の食卓に笑顔を届けられる」企業をめざします。

※1 ECサイト(Electronic commerce site)：自社の商品やサービスをインターネット上で販売しているサイトのこと。
※2 コンソーシアム：特定の目的のために複数の企業等が集まって形成される共同体、共同事業体のこと。

味や彩りに加え、食べる楽しさを演出するボリューム感にもこだわりました

5月1日スマートデリシリーズ第1弾として12品を発売

Smartdeli（スマートデリ）
SmileDiner's Smartdeli

●ECサイト：
http//www.smile-diner.com/
●コールセンター：
0120-72-8181（フリーダイヤル）
【受付時間 9:00～19:00(土、日、祝日を除く)】

会社概要（2008年4月末現在）

社　名	：株式会社スマイルダイナー
本社所在地	：〒104-0032　東京都中央区八丁堀3丁目12-8　八丁堀SFビル8階
設立年月日	：2007年8月24日
資本金	：4億円(株式会社ニチレイフーズ51%、三菱商事株式会社49%)
代表者	：代表取締役社長　宮本 善之(株式会社ニチレイフーズより出向)
売上高	：23億円(2009年度目標)
従業員数	：10名
事業内容	：生活習慣病患者およびその予備軍の方々に適した、カロリー・塩分調整食を中心とした在宅向け・施設向け配食事業

株式会社ニチレイフレッシュファーム ～「純国産鶏種 純和鶏」を生産します。

株式会社ニチレイフレッシュファームは、昨年5月1日に株式会社ニチレイフレッシュと株式会社イシイとの合弁で設立されました。独立行政法人家畜改良センター兵庫牧場が育種改良した原種鶏を株式会社イシイにて交配・孵化・飼育します。そこで誕生した種鶏「純国産鶏種 たつの」を交配させたひなを、株式会社ニチレイフレッシュファームで「純国産鶏種 純和鶏」として飼育・販売します。

この純和鶏は適度な柔らかさとコクがあることで、鍋料理はもちろん焼き料理にも高い評価を得ています。現在、徐々に稼動に入っており、今後は年間約150万羽の出荷を計画、2009年度売上高目標は10億円です。

食品事業者による企業養鶏事業として、高いトレーサビリティ管理による「安全・安心」のブランドとして付加価値を高めるとともに、バイオマスを活用した環境の持続可能性向上もめざしています。

ニチレイフレッシュファーム洋野農場風景

純和鶏専用飼料バルク車

純和鶏を育てています

会社概要（2008年4月末現在）

社　名	：株式会社ニチレイフレッシュファーム
本社所在地	：〒028-7916　岩手県九戸郡洋野町種市第73地割142-47
洋野農場所在地	：〒028-7916　岩手県九戸郡洋野町種市第73地割142-47
設立年月日	：2007年5月1日
資本金	：1億円(株式会社ニチレイフレッシュ85%、株式会社イシイ15%)
代表者	：代表取締役社長　佐藤 実(株式会社ニチレイフレッシュ取締役副社長)
売上高	：10億円(2009年度目標)
従業員数	：13名
事業内容	：肉用鶏の飼育および販売、食肉の加工および食肉の販売、ひなの販売

発売22周年。アセロラドリンクをリニューアルしました。

新聞・雑誌に広告展開

NEW DESIGN

1986年の発売以来、今年で22年目を迎える「アセロラドリンク」は年齢層を問わず多くの方から果実飲料としてご愛顧いただいております。本年、そのアセロラドリンクをさらに多くの方にご愛飲いただけるように、大きくリニューアルをしました。

アセロラドリンクは、もはや単なる果実飲料ではなく現代の若い女性の強い味方として誕生します。「美しくありたい」と願い、常に自分を磨き続ける女性たちの新しい生活習慣として。

パッケージデザインもアセロラ果実の赤を大胆に使い、力強く、シンボリックなデザインになりました。

いつの時代も色あせない永遠の美しさを備えたアセロラのシルエット、取り囲む円は、鮮度を凍結させるニチレイフーズの技術を表現しています。

3月には「東京発　日本ファッション・ウィーク」初の公式飲料に選ばれ、ファッションの聖地「表参道ヒルズ」をアセロラ一色にする広告ジャックも展開しました。

今後も「美容」を軸にしたコミュニケーション活動を実施していきます。

アセロラをホームページで、ご紹介しています。 **http://www.nichireifoods.co.jp/topics/acerola/**

発展を続けるニチレイロジグループの海外事業

ニチレイロジグループの海外事業は、1988年のオランダ進出から今年で20年という節目を迎えます。この間、欧州における冷蔵倉庫の設備能力は43万トンを超えるまでに成長しました。

現在、ニチレイ・ホールディング・オランダB.V.の傘下に冷蔵倉庫事業4社9拠点、低温運送・通関事業2社を有し、欧州の玄関港ロッテルダムを中心として、ドイツ、ポーランドにおいても展開しています。売上高も2007年度には220億円を上回る規模となりました。

さらに、経済発展の著しい東欧への拡大を図るため、ポーランド南部に第2センターを建設、2009年秋の稼動をめざしています。

一方、中国では2004年に上海鮮冷儲運有限公司を設立し事業基盤を確立、旺盛な需要に応えるべく新センターの建築を計画中です。また、インドでは、1996年にスノーマン・フローズンフーズ社に出資し、事業機会を探っています。

海外でも、お客様に選ばれ続ける高品質な物流サービスを武器としてグローバルな事業展開を推進していきます。

欧州最大のコンテナ取扱量を誇るロッテルダム港

ユーロフリゴB.V.をバックに、テルモトラフィック・オランダB.V.の車両

上海の虹梅南路センター

Introduction

いっしょに食べよう。いっしょに笑おう。
ニチレイ

ご好評の商品をご紹介します。

海老塩炒飯　家庭用

人気の具材である海老をふんだんに使用し、伯方の塩と自社製「中華スープ」で味付けをした炒飯です。あっさりと上品な味わいです。

お弁当にGood！ あじの甘辛焼き&さんまの蒲焼き風　家庭用

国産のあじとさんまを使ったごはんに合う2種×2個のお弁当向け商品です。骨をやわらかく加工する独自の技術により、魚の骨を気にせず安心して食べられるようになっています。

お弁当にGood！ 焼肉だれ仕立て 牛カルビカツ　家庭用

焼肉屋さんの人気メニュー「牛カルビ」をお弁当向けに食べやすいフライにしました。オリジナルの焼肉タレが味の決め手です。

安心逸品® 国産ミートハンバーグ　業務用

安心逸品®シリーズ（無着色料・無化学調味料・無香料・無リン酸塩）の新商品です。国産の豚肉と鶏肉をベースにしたふんわりやわらかなハンバーグで、主に学校給食シーンでご好評いただいております。

ふわふわ卵のオムライス（デミグラスソース付き）　業務用

酸味とコクのあるライスに、ふわふわとした半熟感のある卵がおいしいオムライスです。本格的な味わいのデミグラスソースがセットになっています。

蔵王山麓ミルクの濃厚クリームコロッケ　業務用

蔵王山麓ミルクを使用したなめらかなクリームコロッケです。乳脂肪分3.8％でミルク感たっぷりの濃厚なクリームが素材のおいしさを引き立てます。主にお惣菜売場で専用袋に入れて販売します。

家庭用 商品のお問合せ先：お客様相談センター フリーダイヤル 0120-69-2101【受付時間：9:00～17:00（土、日、祝日を除く）】

おいしさひと工夫

当社の商品を使った調理例をご紹介します。

あじとさんまの蒲焼きちらし

【材料2～3人分】
ごはん　500g、ちらし寿司の素　1袋
にんじん　3cm、錦糸卵　1／2個分、さやえんどう　適量
白煎りごま　適量、塩　少々、しょうゆ　2～3滴

●お弁当にGood！　あじの甘辛焼き&さんまの蒲焼き風　1袋

【作り方】
① あじの甘辛焼き&さんまの蒲焼き風は、パッケージ裏面を参照し、電子レンジで加熱後、7mmくらいに切ります。
② ごはんに、ちらし寿司の素を混ぜ合わせます。錦糸卵を作ります。
③ にんじんは花形で抜き薄切りにして、塩少々としょうゆを2～3滴落とした中で茹でます。さやえんどうも茹で千切りにします。
④ 器に②のごはんを盛り、錦糸卵、花形にんじんを散らします。その上に①をのせ、さやえんどうを散らします。最後に、白煎りごまをふります。

牛カルビカツ天むす風

【材料天むす6個分】
ごはん　300～420g（天むす6個分）、のり　1.5枚、カイワレ大根　少々
しば漬け　適量、塩　少々

●お弁当にGood！　焼肉だれ仕立て 牛カルビカツ　1袋

【作り方】
① 焼肉だれ仕立て牛カルビカツは、パッケージ裏面を参照し、電子レンジで加熱します。
② 手のひらに水と塩少々をつけ、1/6等分したごはんを取り、①の牛カルビカツを握ります。
③ 1枚ののりを縦に4等分します。のりをおむすびの肩からショールのように掛けカイワレ大根を添え、巻きます。
④ 器に盛り、しば漬けを添えます。

株式の状況（2008年3月31日現在）

発行可能株式総数 …… 720,000,000株

発行済株式総数 …… 310,851,065株

※発行済株式総数には、自己株式（709,524株）を含んでいます。

単元株式数 …… 1,000株

株主数 …… 31,068名

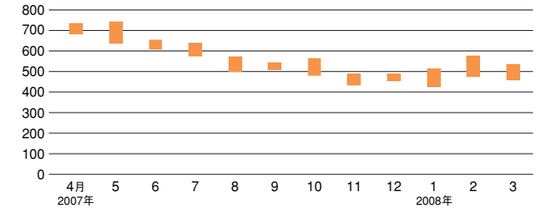
●大株主

株　主　名	持株数（千株）	出資比率（%）
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	20,190	6.5
日本生命保険相互会社	16,785	5.4
株式会社みずほコーポレート銀行	15,370	4.9
株式会社三菱東京ＵＦＪ銀行	13,903	4.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	12,397	4.0
株式会社損害保険ジャパン	11,059	3.6
第一生命保険相互会社	5,716	1.8
みずほ信託退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託	5,598	1.8
農林中央金庫	5,350	1.7
ドイツ証券株式会社	4,379	1.4

（注）持株数は千株未満を切り捨てて表示しています。

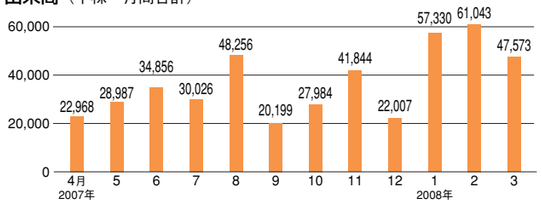
●株価チャート

株価（円）

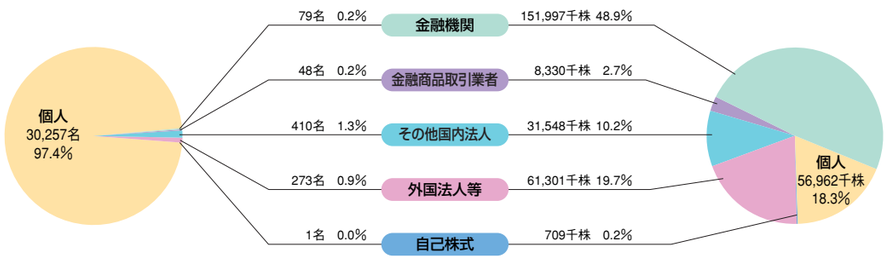


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
高値	736	741	655	639	574	545	565	487	490	515	577	534
安値	685	634	607	572	500	508	480	432	453	428	476	458

出来高（千株・月間合計）



●所有者別株主数分布状況



●所有者別株式数分布状況

会社概要（2008年6月25日現在）

社　名　株式会社ニチレイ

所在地　〒104-8402 東京都中央区築地六丁目19番20号
ニチレイ東銀座ビル

設　立　1942年12月

役　員

代表取締役	会長	浦野光人
代表取締役	社長	村井利彰
取締役	専務執行役員	相馬義比古
取締役	専務執行役員	長谷川寿
取締役	常務執行役員	三田勇太郎
取締役	執行役員	河合義雄
取締役	執行役員	荒剛史
社外取締役		廣瀬光雄
社外取締役		炭谷俊樹
社外取締役		川俣美由里
監査役	（常勤）	大塚恒博
監査役	（常勤）	永塚一昭
社外監査役	（非常勤）	齊田國太郎
社外監査役	（非常勤）	安念満
	執行役員	中村隆
	執行役員	山田達男
	執行役員	森康益

会計監査人　新日本監査法人
東京都千代田区内幸町二丁目2番3号 日比谷国際ビル

http://www.nichirei.co.jp/

事業紹介や株主・投資家向け情報はもちろん、皆様のお役に立つ商品・サービス情報を掲載しています。

株主優待制度について

※写真は2008年度の実施内容です。

株主の皆様に当社および当社商品に対するご理解を深めていただくため、株主優待制度を実施しています。

●優待制度の内容（2008年度）

＜ニチレイアセロラシリーズ＞

- ニチレイアセロラ+コラーゲン　75ml瓶（新商品）
- ニチレイアセロラビタミンC　75ml瓶
- ニチレイアセロラ+ローヤルゼリー　75ml瓶（新商品）

●対象

毎年3月31日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された1単元（1,000株）以上保有の株主様を対象とさせていただきます。

●お届け時期

7月上旬にお届けいたします。

●お問合せ先

（03）3248-2101（代表）

受付時間：9:00～12:00 13:00～17:30　土、日、祝日は除く